

## 島根県で初確認されたノスゲについて

柳 浦 正 夫\*・井 上 雅 仁\*\*

### First record of *Carex tashiroana* Ohwi from Shimane Prefecture

Masao Yagiura and Masahito Inoue

#### 1. はじめに

ノスゲ *Carex tashiroana* Ohwi はカヤツリグサ科スゲ属ヌカスゲ節の多年草であり、渓谷の岩場に生育し、ホンモンジスゲ類の中では小型で、密に叢生し、匍枝はなく、基部の鞘はあまり伸びず、褐色、ときに繊維状の細裂する。葉は幅1.5~2.5mm、頂小穂は雄性で独立し線形、側小穂は雌性で線柱形で短柄をもち、果包の嘴が短く外曲するなどの特徴を持つ(勝山, 2005; 星野・正木, 2002; 2011; 大橋ほか, 2015)。

当初、大井(1930)により山口県東部の生育が報告され、大橋ほか(2015)において本州(岡山県・広島県・山口県)の分布が報告されているが、この度島根県でも初めて本種の生育を確認したのでここに報告する。

#### 2. 分布状況

ノスゲについての最初の報告はOhwi(1930)で、山口県の小瀬川に生育しているのが報告され、独立種として記載された。

これまでの報告を見ると「山口県植物誌」(岡ほか, 1972)では「本種はアオスゲとオオイトスゲとの中間的性質をもつもので、山口県東部と広島県西部一帯にのみ見られる。」とし、玖珂郡岸根、大三郎、宇佐、寂地山の記載がある。また、「広島県植物誌」(広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会, 1997)では岡本 香による南原峡と星野卓二ほか採集による福山市猿鳴峡の標本のみ紹介されている。これを見るとすでに広島県東部の報告が見られるが、

「山口県植物誌」での西部の分布については南原峡などになるのか判断できない。さらに星野・正木(2002)では広島県の東部の岡山県との県境付近の神石郡三和町(現、神石高原町)猿鳴峡での分布が報告されており、岡山県での発見の可能性が示唆されていたが、勝山(2005)では本州(岡山県西部~山口県)の記載があるので、岡山県でも確認されたようである。

近年の報告として、広島県では神石郡神石高原町、福山市、山県郡北広島町、安芸太田町、広島市、廿日市市、大竹市、江田島市で標本が採集されており(一橋・世羅, 2014)、またすげの会により全国の博物館の標本が確認されて、山口県東部から岡山県西部までの確認地点が報告されている(すげの会, 2018)。

種の扱いとしては、さまざまな意見をみることが出来る。新種と記載した大井においてもツルナシオオイトスゲとアオスゲの雑種の可能性が指摘されているが(Ohwi, 1936)、「山口県植物誌」では岡国夫によってアオスゲとオオイトスゲの中間の性質をもつとある。また原記載の文献は確認できなかったが、「広島県植物誌」で、「北村・田村・小山(1964)はアオスゲとシバスゲの雑種であろうとした。」とある。このように各種の中間の形態をもち、雑種等の可能性も示唆されているが、星野ほか(1994)により染色体の解析が行われ、雑種の可能性が低いとされている。

#### 3. 島根県内での確認状況

2018年、県中央部の美郷町上川戸で江の川沿岸の岩場にホンモンジスゲ類のスゲを見かけ採集した。検索した結果ノスゲではないかと思っていたが、同年

\* 島根県立出雲高等学校, 〒 693-0001 島根県出雲市今市町 1800

Shimane Prefestural Izumo Senior High School, 1800, Imaichi-cho, Izumo, Shimane, 693-0001, Japan

\*\* 島根県立三瓶自然館, 〒 694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

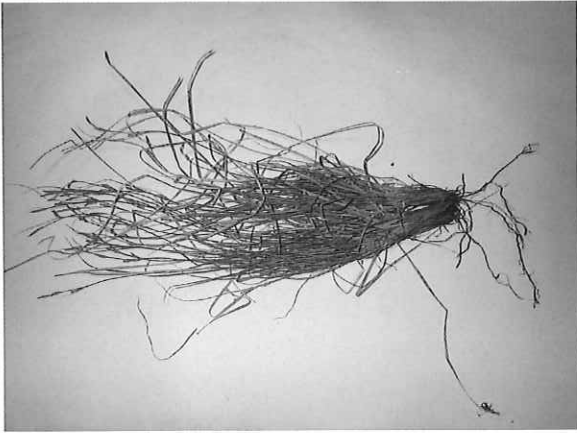


写真1 ノスゲ本体

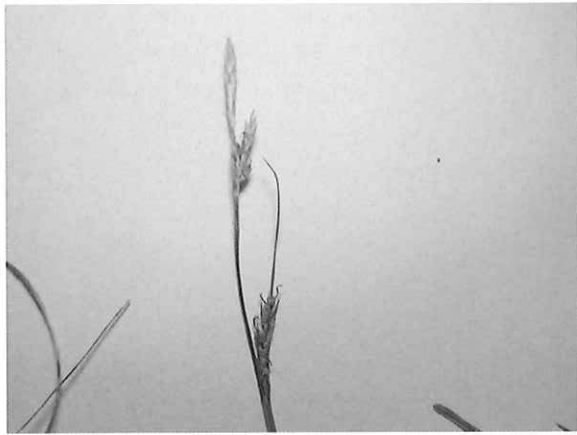


写真2 ノスゲの小穂

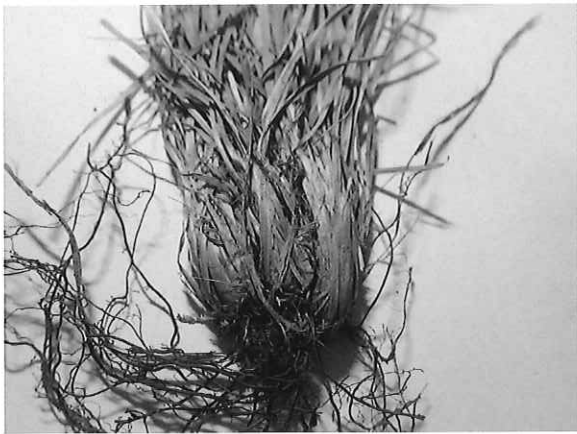


写真3 ノスゲの基部、葉鞘部

11月の三瓶自然館で行われたすげの会標本同定会に持参したところ神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏によりノスゲであると同定いただいた。今回島根県初確認となったが、江の川流域には同様な環境も多く、また西部の高津川流域なども山口や広島の分布域に近いので生育の可能性は高いのではないかとと思われる。

標本の一部は三瓶自然館に収蔵してある。

## 謝 辞

すげの会の皆様には標本を同定していただく機会を与えていただいた。また神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏には、標本同定をしていただいた。この場を借りて深謝を表す。

## 引用文献

- 星野卓二・正木智美 (2002) 岡山県カヤツリグサ図譜 (I) 岡山県スゲ属植物図譜 229pp. 山陽新聞社, 岡山.
- 星野卓二・正木知美 (2011) 日本カヤツリグサ科植物図譜. 782pp. 平凡社, 東京.
- 勝山輝男 (2005) ネイチャーガイド 日本のスゲ. 375pp. 文一総合出版, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司 (2015) 改訂新版 日本の野生植物1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 391pp. 平凡社, 東京.
- 岡 国夫ほか (1972) 山口県植物誌. 607pp. 山口県植物誌刊行会, 山口.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会 (1997) 広島県植物誌. 832pp. 中国新聞社, 広島.
- 一橋賢三・世羅徹哉 (2014) 広島県におけるスゲ属植物 (カヤツリグサ科) の分布. 広島市植物公園紀要 32: 53-102.
- 星野卓二・亀山育代・安原清隆・勝山輝男 (1994) ノスゲの細胞分類学的検証. すげの会会報 (5): 12-17.
- Ohwi, J. (1930) Contributiones ad Caricologiam Asise Orientalis I. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ., Ser. B. Biol. 5: 247-292.
- Ohwi, J. (1936) Plantae Novae Japonicae (III) J. Jpn. Bot. 12: 652-665.